2010.10.06 更新

手塚治虫漫画作品『罪と罰』を読む

『罪と罰』*Crit71e and Pulush171ent* 1953年11月5日東光堂刊

（ファウスト（一九四九（昭和二四）年）につぐ世界名作小説もの。「ぼくは『罪と罰』が大好きで、学生時代に何十回も読み返し、おまけにこの世紀末的な退廃の世界が、終戦直後の日本のムードと似たところもあってひどく身近に感じ、かいてみようという気になったのです」（全集ＭＴ10、「あとがき」）。また、手塚は学生時代から劇団に関係し、大阪の朝日会館で上演した「罪と罰」でペンキ屋の役を演じている。

ドストフェスキーの名作『罪と罰』（一八六六（慶応二）年）のあらすじはよく知られている。天才にはすべてのことが許されているという独特の天才論にもとづき、金貸しの老婆を惨殺して金を奪った苦学生ラスコーリニコフ（ロシア語で「教会分離者」の意味、手塚作品ではラスコルニコフ）が良心の呵責にたえきれず、聖女のような売春婦ソーニヤの励ましをえて、ついに罪を告白し、許しをこうに至るという全体の流れは、この手塚作品でも忠実に守られている。しかしながら、これはあくまでも子どもむけの作品であり、それなりに筋がダイジエストされているし、またスビドリガイロフにいたっては、すっかり役柄を変えてしまっている。「しかし、原作でも、彼は主人公ラスコリニコフの影のような性格の人物として登場しますし、選民意識の強いアウトサイダー

として、これはこれでいいとおもっています」（同上）。

漫画作品としてみるならば、ここにはさまざまな実験が試みられており、むしろ前衛的な感じすらあたえる。また、この作品には「犯罪者の心理の揺れを描写する心理的サスペンスの名場面が続出する」（真崎守、一九九〇（平成二）年、270頁）。

まず驚かされるのは冒頭部分、15ページにおよぶ、画面の同時性を強調した齣割りである。最初の4ページは、これから殺人にでかけようとする主人公ラスコルニコフが、歩きつつ回想し、金貸し殺しを自分に納得させる場面である。ページの右半分には、まったく同じラスコルニコフのプロフィールが反復され、左半分には吹き出しを使った回想場面が連続し、最後になってようやく凶器となる斧が映しだされる。次に質屋が入っているアパートが画面の上下すべてを使ってぶち抜きで描かれ、すべての出来事が同時進行していく。あたかも、舞台にしつらえた三階建ての足場を眺めるかのようである。二階の空室のペンキを塗るふたり。コットン、コットンと階段を上ってくるラスコルニコフ。もっとも注目すべきは、殺人そのものは質屋の扉のむこうで起こるため、画面上ではみえないことであろう。この異例に長い連続場面は、ラスコルニコフが階段を駆け降りるところでおわる。

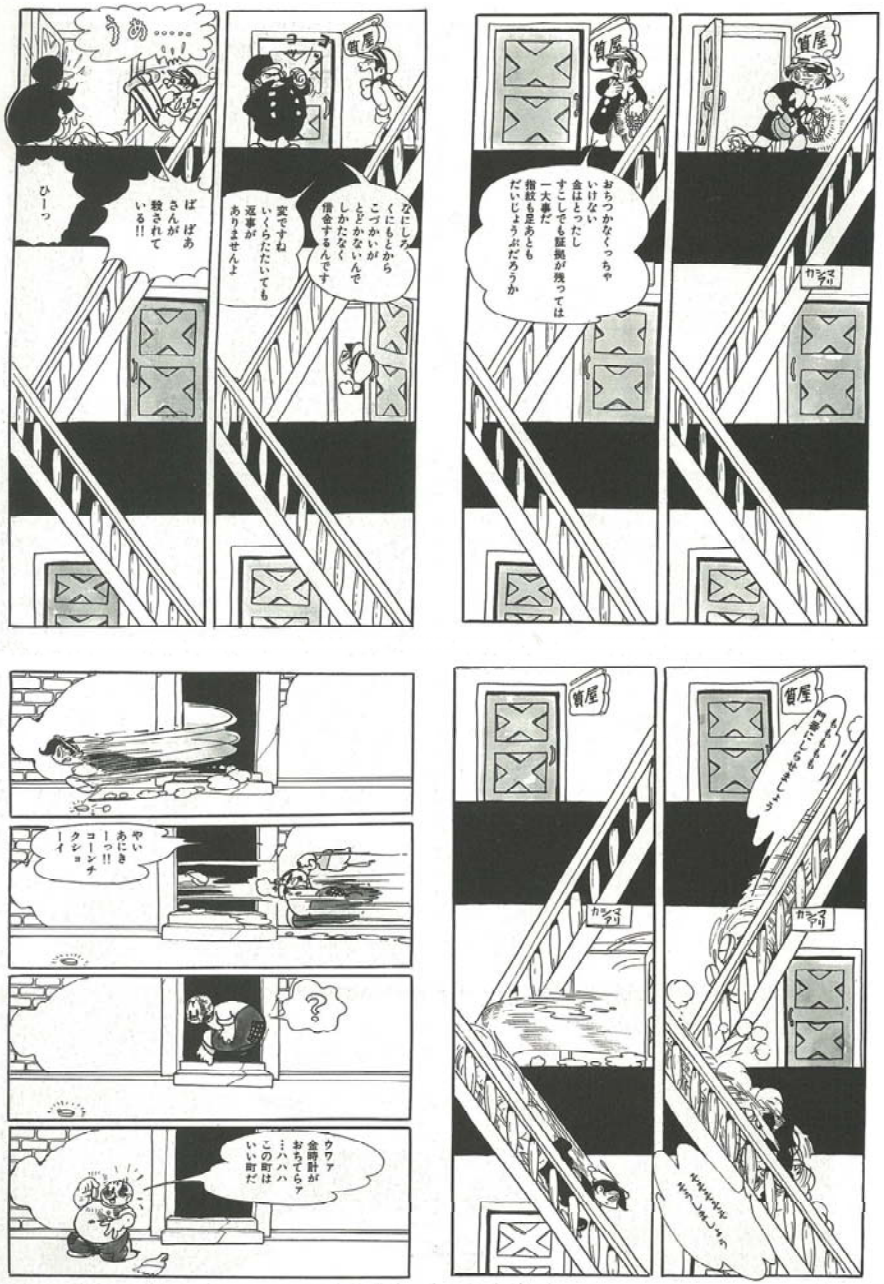
結末部分、殺人を告白するラスコルニコフと、それをきいて自首をすすめるソーニヤ、このふたりの“静”と、スビドリガイロフの指揮する反乱の“動”とがからみあって進んでいくあたりも、作者の天才的なひらめきを感じさせる。ソーニヤにいわれたように、たしかに彼は広場に行き、地面に接吻して罪を告白した。しかし、あたりは暴動で湧きたち、だれひとりとして彼に注目するものはいない。爆業や銃声のひびきの中を、遠ざかっていくラスコルニコフ一奇妙に孤独感をかもしだす場面でこの名作はおわる。これらの群衆シーンは、もちろん手塚の発案であり、原作そのものにはない。とりわけ、見開き2ページを使い、群衆におもいおもいのことをいわせている場面は圧巻である。中央やや左に、地面に接吻しているラスコルニコフがみえるにはみえるが、周囲の

あまりの騒乱ぶりに、読者ですらその姿にしばらく気づかないだろう。つまり、この場面で、わたくしたちはすでに広場のなかに投げ込まれ、右も左も分らない状態になっているのだ。つまり、それまで読者として、距離をおいて物語の展開を見守っていたのに、ここでいきなりその中に巻きこまれてしまうのだ。ある対談のなかで、この群衆シーンにふれて、手塚は「あれを書きたいために、一冊書いたみたいなものでね」といつている(手塚治虫・巌谷國士、「対話二十世紀の印象一 手塚マンガの方法意識」、『ユリイカ」、一九八三(昭和五八)年二月号、105頁)。たしかに、ここには手塚のいう「終戦直後の日本のムード」といつたものが感じられる。(KM)

〔朝日新聞主催一九九一(平成三)年「手塚治虫展」圖録解題74頁から抜粋した〕

この漫画は売れ行きが余良くなかったらしい。なぜだろうか?。名作を漫画にすると、何かがおざなりになってしまうのだろうか?。だが、當時は當時、今私はこの漫画をじっくり読みつつ、中身を探ろうとしている。なぜなら、この漫画には手塚さんのユーモアが「間抜け=馬抜け」と懸けて描かれていたり、遠近感が素晴らしかったりする。たとえば、雨のシーン。鼠と天から降り注ぐ冷たい雨はとてもリアルに表現され、雨の雫に映し出された顔の一つ一つになにか写真家のような構図を見てしまうのである。そして、何よりも富裕であれ、貧乏であれ、此の世のなか生きることの大切さを斯くも見事に描き出した作品でもあるからだ。その登場する人物が語りかける一つ一つのことばことばに自然と耳を傾けてしまうのは私だけではないであろう。〔2010/10/06萩原記〕

次にこの作品のダイジェスト版を記載しておくので読んで見てほしい。そして、原作であるドストフスキーの『罪と罰』をもう一度読み直す一つのきっかけにも成ろう。手塚作品の名作はこうあるべきだと豪語したい気持ちである。


質屋
質屋
カランコロン
おちつかなくっちゃいけない
金はとったし
すこしでも証拠が残っては一大事だ
指紋も足あともだいじょうぶだろうか
質屋
なにしろくにもとからこづかいがとどかないんでしかたなくいんで借金するんですよ
質屋
実ですね いくらたいても返事がありませんよ
うあ……
ばばあさんが殺されている!!
ひーっ
やいあにきーっ!! コーンチクショーイ
?
ウワアア金時計がおちてらアア…ハハハこの町はいい町だ
質屋
カランコロン
質屋
カランコロン

ッ
ッ
ッ

フウ
フウ
フウ
警察だ きっと 刑事だな……
ケ あけるよっ
ワッ
ギャッ
なんだ… アパートの 娘と 郵便夫か… 帰って くれーっ!!
ぼくをほっておいて くれーッ ぼくに かまうなッ ……ウーム 行ってくれ!!
ラスコルニコフさん! きっと病気 なんだわ
だって あんたの とこへ 書留 郵便 がきて るんで
なに… 書留 郵便?
おくにから でがすぜ
あんた 手に 何を にぎって るの…
何かたべたい ものはない?
あっち 行けっ!!
ラスコルニコフ きっと 病気 なんだわ
ドカ
ワッ
おれは なんてバカ なんだ
おお
とってきた サイフをかく さなくちゃ
ラスコルニコフ さん ラスコルニコフ さん どうしたん ですの
あけてください よ 生きている の? 死んでる の?
るすかも しれねぇ ですぜ
だって 中から かぎが かかって るわ
きっと ねてる の でしょう よ
ラスコル ニコフ きっと 血だわ
血!
なんの 血だ!!
あなたの 血のけの せいよ ……
逃げよう… なんだか もうみんなが ぼくを うたぐってきた ようだぞ
そうだ アメリカへ でも 行こう
なにもかも みんな 持って 行くぞ
どうか してら ベッド まで 持って 行く ことが あるか い
ドボ ドボ

気をつけ やがれ!! ウマの下を 抜けようと するなんて ……それが まぬけって てんだぞ
ガチャ
ドスン

やっぱり ぼくはどうかしているよ
ノイローゼらしい 帰ってねようそれがいいや
モヤ……
ラズーミン
へへへへ
しかし 君は……
こんなものたべちゃいかんよ
あ…なんでもない 何…!!
こいつめ ぼくをさぐりにきたんだな
あなたのことはいろんな筋で よく知っています
あなたの論文を読みましたよ
それによると 世の中には なんでも やっていい 天才がいると いうことですね
いや― この スープは うまいな……
アハハ!! あれはいくらでも いい…という 仮説ですよ それが世の中を よくすることに なるんならね
しかし 天才でもない 人間がそれをやると 罪になります
親がきっと くるでしょう
では 親には 天才には こないのですか?
親なんてものは その天才が作って 決めるんです だから くるはずがありません
ぼくが!
よくーわかります あなたはですね 自分が天才の ひとりだと
お考えに なったことが ありますか?
ハッハッハッハッハ
ハッハッハッハッ

ぼくのように自分を美麗だと思ってるやつが
何人もいるんだ
ズモドリガイロマもそのひとりだ……
だれもかれも美麗と思いこんで勝手なことをやってるんだ
撃て!!
われわれは人民の集団だ
サッハハハハ
すぐ町の広場へいらっしゃい
そして美麗に宣言して大声で「殺人はぼくだ!!」というのよ
それからね!
自首なさいな
それがいちばんいいことですわ
ばかばかしいっ
なんか……
死んだってこわくもないぞ
行きましょう
この石段を降りたら広場ですわ
お元気でね
ソーニャ
もしぼくが牢屋へはいっても
ぼくのことを忘れないでいてくれるかい?
これを……
ぼくにくれるの?
ありがとう
じゃ……
行ってらっしゃい
撃て!!

金がほしいために金貸しアリョーナばあさんをおので殺したのはぼくだ!!